石峰&抱月のふるさと『波佐まるごと博物館』

波佐ネット通信

Ｎｏ． 286　2025.11.10

地域研究センター協議会
【参加団体】
西中国山地民具を守る会
波　佐　文　化　協　会
能　海　寛　研　究　会

企画展で「黒韋威胴丸」残欠を公開展示中

　現在、浜田市金城歴史民俗資料館で開催中の企画展「波佐まるごとミュージアム展」に併せて「黒韋威胴丸残欠」(室町時代) を展示中です。厳島神社の国宝「黒韋威胴丸」、安芸太田町大歳神社の広島県指定「黒韋威胴丸」と同等の黒韋威胴丸の残欠です。
　甲冑研究家の豊田勝彦氏に、ばらばらだった残欠を並べ替えしていただいたものです。

黒韋威胴丸残欠

室町時代　西中国山地民具を守る会所蔵

　島根県浜田市金城町波佐に鎮座する常磐山八幡宮に伝来したものである。
　単体の鉄板で作られた胸板等の金具廻りや非鉄金属製の飾り金具類は全て欠損してしまったが、① 鉄革交互に混ぜた本小札 ② 二山を有する 14 穴で端部同士を重ねる鉄製伊予札③ 革札のみの本小札の三種類の札板と、幸いにして①のやや大き目な上下に連続する塊が背中中央に当る後立挙（うしろたてあげ）部に相当する事が確認できる。
　以上からこの甲冑も、安芸太田町大歳神社所蔵品同様、胴廻りは鉄伊予札・前後の立挙と草摺上部は鉄札交わりの本小札・それ以外の草摺下部は革札のみの本小札から仕立てられた、右脇開閉式の胴甲であったことは疑うべくもなく、袖は勿論のこと兜も往時は装備していたものと想定される。右脇重なり部の前側が欠損しているので確証には欠けるが、地理的要因から厳島神社や大歳神社同様安芸国内で作られたものと考えるべきであろう。**解説：豊田勝彦氏**

赤色で囲んだ部分が現存する残欠部位です。